

『『空気を読む』ことの本質』

心温まる春の訪れとともに、豊かな大自然に抱かれ、多様な文化を育ててきたここ釧路の地から、愛すべき若者たちが旅立つ日を迎えることとなりました。

本日ここに、在校生をはじめ多くの皆様方に祝福され、北海道釧路北陽高等学校 第六七回卒業証書授与式を挙行できますことを、心より嬉しく思っております。ご多用中にもかかわらず、鶴間秀典（つるまひでのり）釧路市長様をはじめ、ご来賓の皆様、保護者の皆様の御臨席を賜り、厚く御礼申し上げます。ただ今、六七期生一九四名に卒業証書を授与いたしました。本校教職員一同、立派に成長した卒業生を送り出せますことを、誇りに思っております。

保護者の皆様、本日はお子様のご卒業、誠にありがとうございます。これまで深い深い愛情をもって、お子様の努力を支えてこられたことと拝察いたしますが、今、十八年余りの歳月を経て、立派に成長したお子様の姿を、しっかりと目に焼き付けておられることと存じます。改めまして、これまでのご苦勞に敬意を表しますとともに、本校の教育活動に対するご理解とご協力に心より感謝申し上げます。

六七期生の皆さん、卒業おめでとう。私は、昨年四月に本校に着任しましたので、皆さんとは一年間という短いお付き合いでしたが、その中で皆さんから、本当にたくさんの思い出をもらいました。授業や学校行事、部活動に懸命に取り組む姿を見せてくれたこと、進路の面接練習で一生懸命に自分の思いを伝えてくれたこと、また、校長挨拶で私の話についてくれたことや、いっしょにボウリングをしたこと、そして、校長室に遊びに来てくれて、たわいもない話をしたことなど、どれもが私にとって、忘れられない思い出です。今日、こうして皆さんに卒業証書を授与できたことが、嬉しくて仕方ありません。本当にありがとう。

ここで、私から皆さんにメッセージを送らせてください。「空気を読む」という人間の行為についてです。確かに、周りの雰囲気を感じ取り、うまく発言したり、行動したりすることは、スムーズに生きるうえで、必要なことです。しかし、あえて皆さんにこう伝えたい。「空気を読み、もしその空気が間違っているのであれば、その空気に抗え」と。人がつくり出す空気は、時に間違った空気となること、弱い立場や少数の立場の人たちを苦しめる空気となることもある、ということを知るべきです。もし皆さんが、身の回りに流れる空気に不正義を感じたなら、正義の心と勇気を持って、堂々と、その空気に抗ってほしいと願います。

加えて、このことに関して、皆さんが自覚すべきことがあります。その空気が正しいのか、間違っているのかを、見極めるために何が必要なのか。それは、学び続けることです。高校を卒業する今日、このようなことを言うのは申し訳ないのですが、皆さんは、これからも学び続けなければならないのです。間違った空気に抗い、正しい空気を創るために、学び続けなければならないのです。みなさんが、社会の問題や課題に勇気を持って立ち向かい、より良い社会を創る人となって、また会える日を楽しみにしています。

結びになりますが、六七期生の皆さんが残してくれた多くの輝かしい実績、また、皆さんの挑戦から生まれた新しい価値は、本校の大切な財産として、後ろに座る在校生へと、確かに受け継がれていくことと思います。立派に成長した卒業生の皆さんの、今後ますますの健康と活躍を期待するとともに、本日ご臨席を賜りました皆様のご健勝を心よりご祈念申し上げ、式辞といたします。